

研究者にとっての データの意味と 大学における データ管理への期待

慶應義塾大学

倉田敬子

研究者にとってのデータ

収集, 分析に
費用も時間も
かかっている

データは
「私」のもの

雑誌の方針に従
い論文投稿時に
データも公開

調査した者に
しか
理解できない

データ共有は
科学の発展に
貢献

データの標準化
もツールの共有
もなされている

一定の調査
参加がデータ
利用の条件

国の政策とし
て共有データ
ベース作成

他人のデータよ
り自分で調査し
た方が確実

行動と意識の多様性

- データ公開に積極的な研究者と否定的な研究者
 - 意識が高いか低いかなのか？
 - 分野による違い？
 - 投稿雑誌，助成機関の方針？
 - 年齢，業績？

阻害要因と推進要因

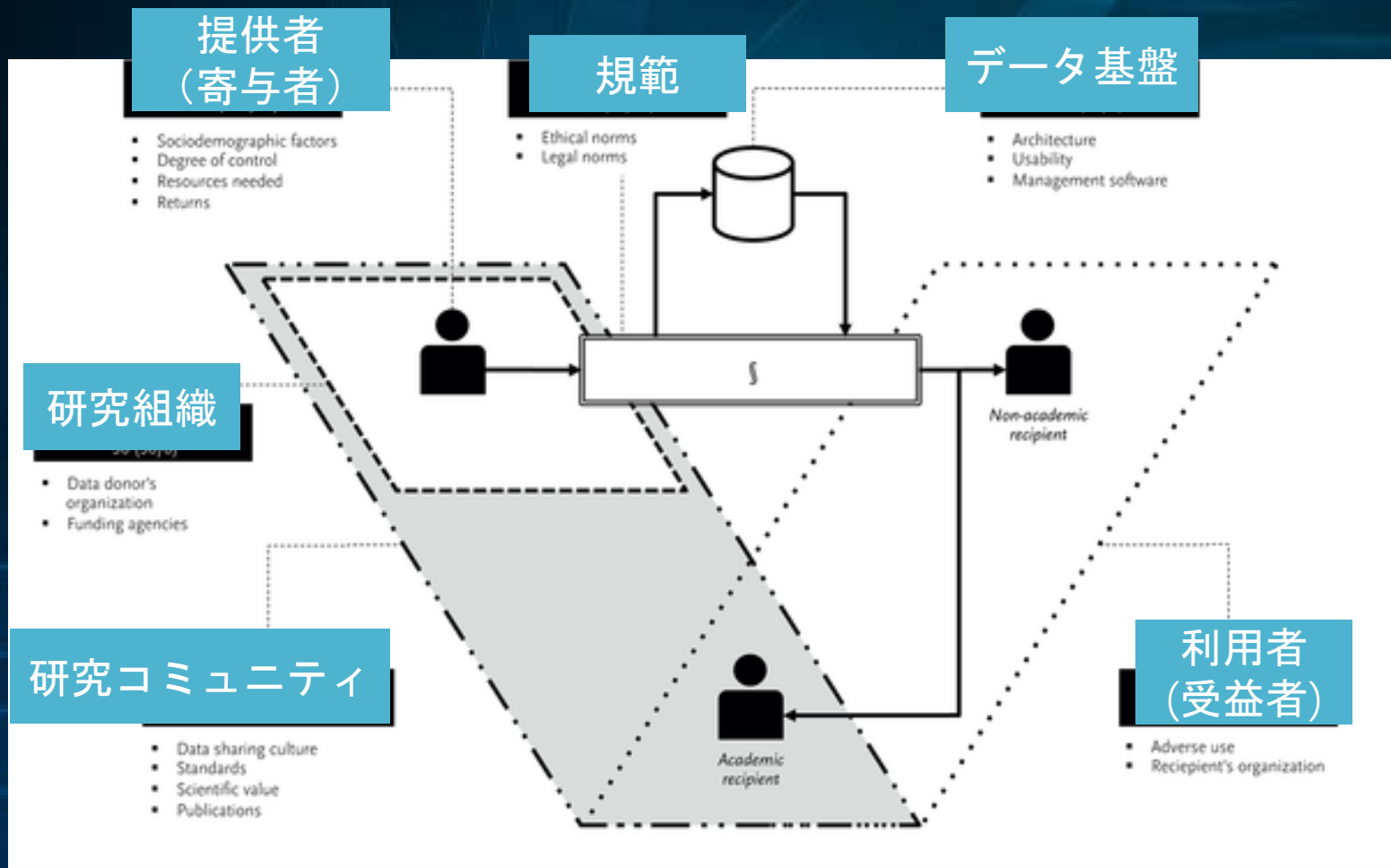
- Fecher等の研究

システマティックレビュー(98論文)

SOEP(独)パネルデータ利用者調査

公開の意思／動機／阻害

阻害要因と推進要因



Fecher B, Friesike S, Hebing M (2015) What Drives Academic Data Sharing?. PLOS ONE 10(2): e0118053.
<https://doi.org/10.1371/journal.pone.0118053>

研究者意識・行動のモデル化

[対象]自然科学分野日本人研究者23人

[方法] インタビュー調査

- 研究活動とデータ/データ共有への意識など
- 内容（言説）を分析
- 研究データに関する406件をクラスター分析
- 14クラスターを5グループに分類

研究者意識・行動のモデル化

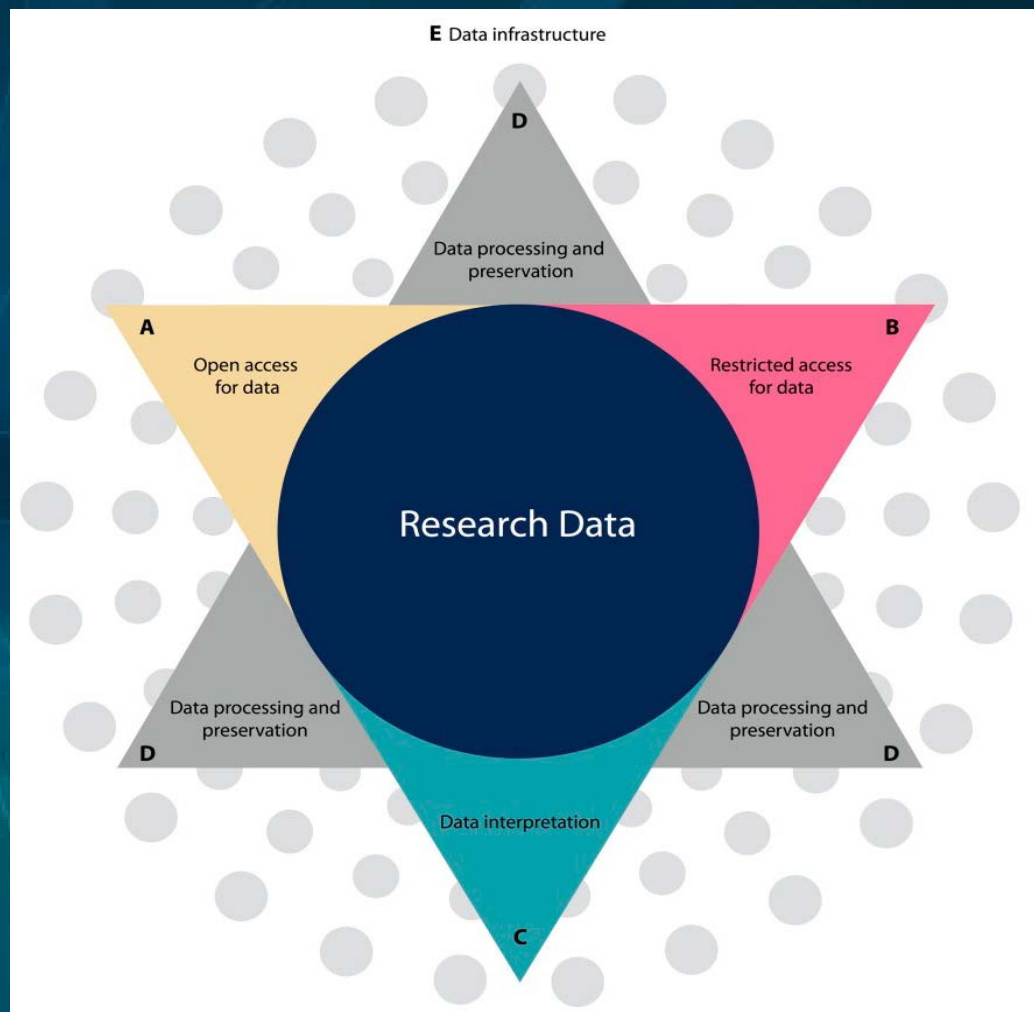
オープンな立場

意味づけの問題

閉鎖的な立場

データ処理, 分析, 保管

データ基盤



Keiko Kurata, Mamiko Matsubayashi, and Shinji Mine. DOI: 10.1177/2158244017717301

Identifying the Complex Position of Research Data and Data Sharing Among Researchers in Natural Science. SAGE Open. 2017.

なぜ複雑，多様になるのか

- 「データ」とは何なのか？

調査データ，実験データ

調査対象者情報，実験機器データ

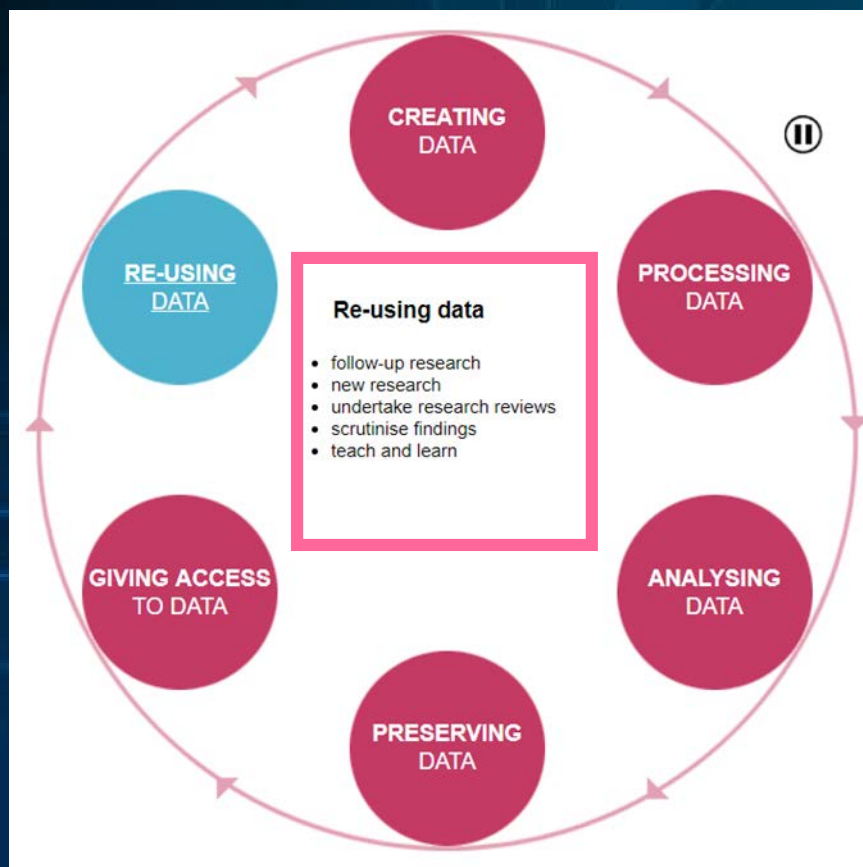
ソフトウェア，プログラム

会合記録，配付資料，スライド

アイデアのメモ……………etc.

なぜ複雑，多様になるのか

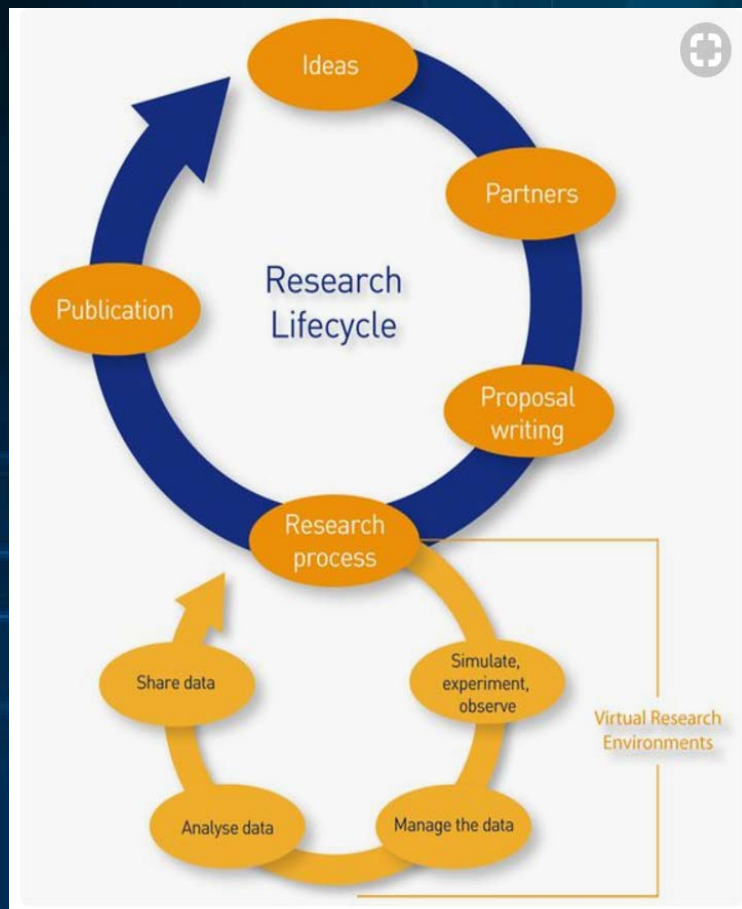
●「データ」と研究の不可分な関係



- データから見た研究プロセス
- データ再利用がなされる研究段階を真ん中に記述
- 研究プロセスの段階とは異なる

なぜ複雑，多様になるのか

●「データ」と研究の不可分な関係



- 研究プロセス中心
- データが「研究実施」段階でしか明示されていない
- データの段階がうまく表示できていない

何をどう支援できるのか

- 研究データ管理には研究プロセスへの理解が必要
- 研究支援全体の文脈の中で、研究データ管理を考える必要



大学は研究データについて何を行っているのか

大学における研究データの 管理，保管，公開

● 2016年3月実施の調査結果紹介

情報管理.2017, vol.60, no.2, p.119-127

[対象] 大学・研究機関494→151回答(30.6%)

[設問]

①オープン化への認識 ②OA化状況

③研究データ保存ガイドライン制定

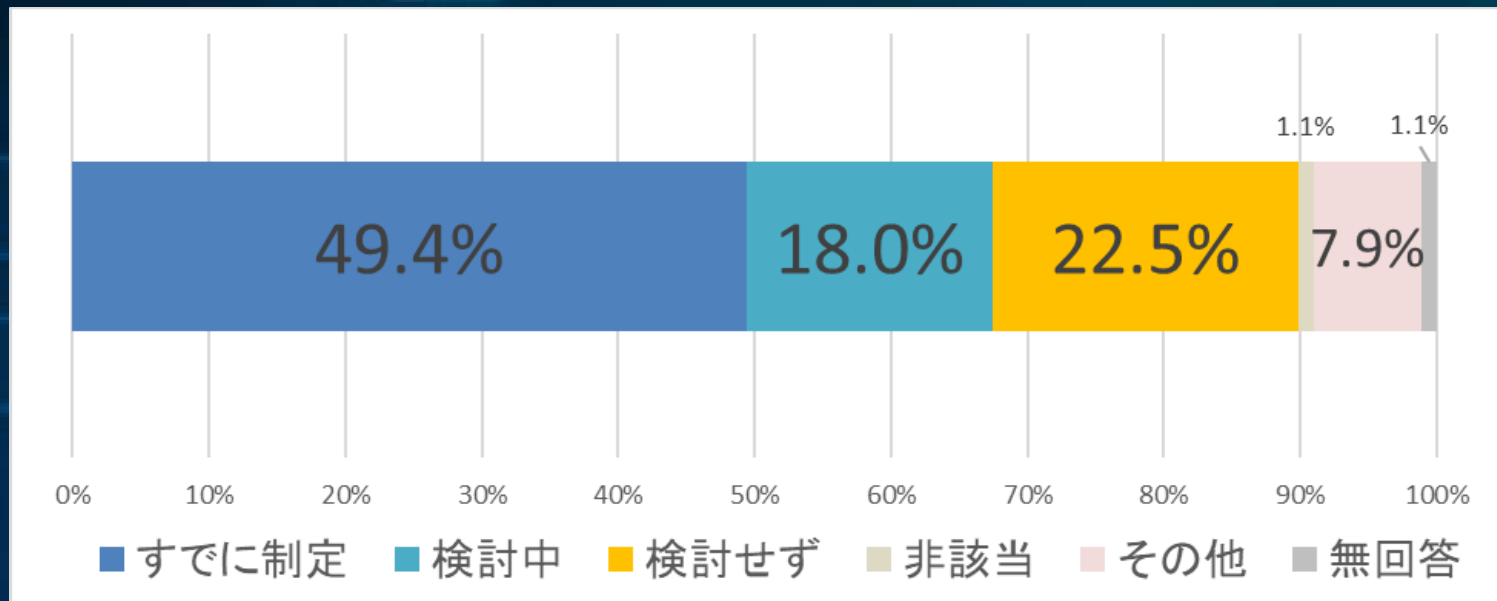
DMPの現状・支援

研究データ用プラットフォーム整備状況

データ公開方策の今後の可能性

大学における研究データガイドライン

- 「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」(平成26年度文部科学大臣決定)への対応 (大学のみ, N=89)



研究データ管理計画 (DMP)

●DMPの作成の義務化

選択肢	大学 N=89	研究機関 N=59
研究データ管理計画の提出を義務付けている	0%	0%
研究データ管理計画の作成を推奨している	10.1%	15.3%
自機関の状況を把握していない	39.3%	15.3%
研究データ管理計画を知らない	36.0%	49.2%
その他	13.5%	18.6%
無回答	1.1%	1.7%
	100.0%	100.0%

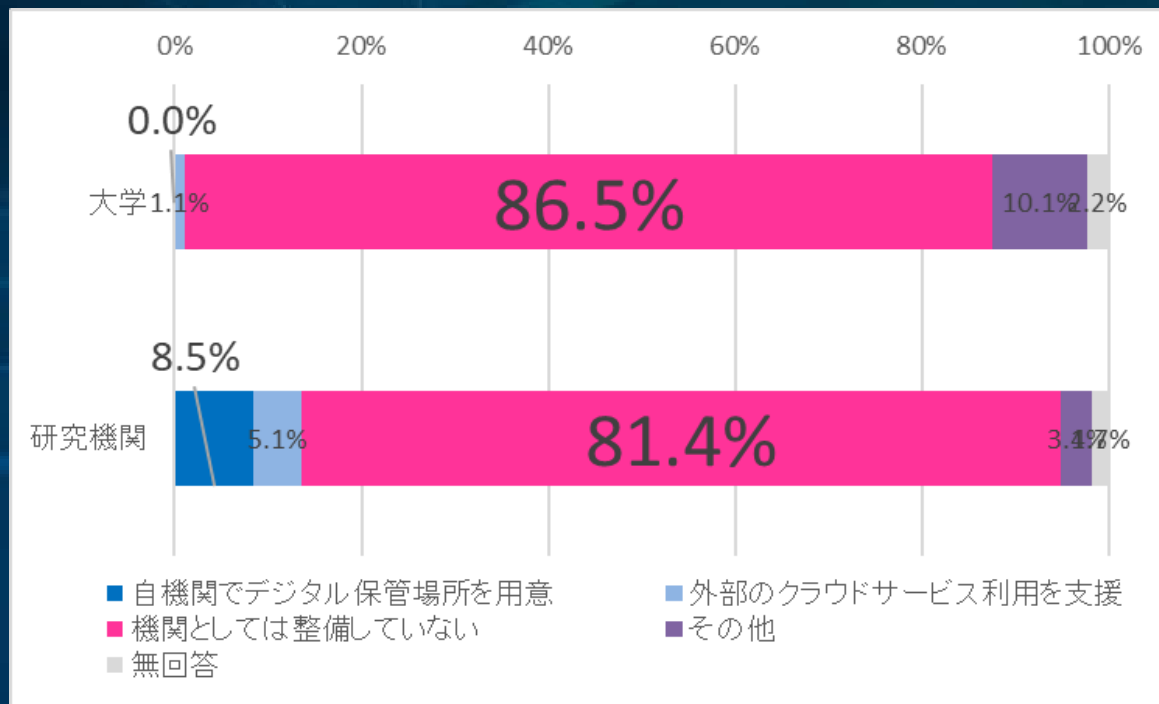
研究データ管理計画（DMP）

●DMPの作成への支援

選択肢	全体 N=151
研究データ管理計画（書き方など）に関する説明会，相談を行っている	2.6%
説明会や相談は行っていないが，海外の大学・研究機関のサイトなどの情報は提供している	2.0%
特に何も行っていない	43.0%
自機関の状況を把握していない	6.6%
その他	4.6%
無回答	41.1%
	100.0%

プラットフォーム整備

- 研究者が自分の研究データを保管、公開するために利用出来るプラットフォームなどを整備していますか



まとめ

- 低い回収率→担当部署がない
- オープンデータに関連する知識がない
- データの保管は「研究不正」の文脈としてしか認識していない
- 保管場所の提供もなく，何らのサポートもなされていない

図書館に何ができるのか

- 伝統的な図書館業務と見なされない



新しい役割の可能性

- ① Embedded Librarian
- ② 学術情報支援部門の構築

Embedded Librarian

- 欧米の医学を中心とした研究図書館
研究，教育プロジェクトのチームの一員

文献探索，情報提供の専門職

↓

学術コミュニケーション，
データ管理，著作権等の知識を
持ち，支援も可能な形に拡大

Embedded Librarian

- 普及してこなかった要因

専門家としての位置づけが困難

個別プロジェクト対応がなじまなかった



- 新しい専門職としての位置づけが課題

学術情報支援部門の構築

●大学全体としての研究支援

研究データ保管用プラットフォーム構築

研究データ管理計画の義務化



研究成果DB, インパクト評価,
研究者の成果のOA状況の把握,
外部資金とのリンク, 購読雑誌との関係
……etc

学術情報支援部門の構築

- 現在の図書館だけではできない
 - ・既存部門との協力では不十分
 - ・新たな協働プロジェクトとして立ち上げることができるか

オープンサイエンスへ

- 大学でのデータ管理，保管
多様なsmall dataの集積



- 研究分野ごとのデータ公開，共有
大規模な研究プロジェクト等でのみ実現



両者の相互補完的関係の構築？